

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 11 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401335		
法人名	(有) 藤田企画		
事業所名	グループホーム 佃の里		
所在地	雲仙市吾妻町永中名 47-1		
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 1 日	評価結果市町受理日	平成 26 年 1 月 6 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様・ご家族様と共に楽しい時間が過ごせる施設にしたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>島原街道から少し脇道に逸れ、近くには小学校や駐在所、農産物直売所があり、活気がある中にも、住宅地としての閑静な佇まいを持ち合わせた事業所である。</p> <p>併設母体は、整骨院で、毎日の訪問リハビリが入居者の日課となっており、プロのケアを継続することで、脳梗塞後の麻痺の回復へと繋がっている。</p> <p>今年度、自治会加入も果たし、地域住民の介護保険に関する相談や、介護以外の生活相談も気軽に受けられている。また、管理者は、僧侶の資格を持ち合わせ、修行で得られた『私は、慈しみの心で接します』との言葉を壁に掲げられ、杓子定規の支援ではなく、入居者一人ひとりに寄り添った温かみのある対応を最も重んじて支援されている。時には、方言で入居者の笑いを誘い、残存能力を信じ暖かく見守り、家族と同様に慈しみを持ってスタッフ一丸となり支援され、本人・家族・地域からも信頼を得ているホームである。</p>
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の一員をめざし、お隣さんとの付き合いをしている	法人理念とは別に管理者自らが修行で得た理念を掲げ“ご家族の思いを汲み取り寄り添える支援”を志し、常々スタッフには詳しく紐解き説明している。管理者・スタッフは、日々、理念の共有を図りながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校・中学校よりの体験など受け入れている	食材調達を兼ねた近隣産地直売所への散歩時の声かけや、デイサービスからの知人の訪問等、地域との交流がある。小・中学校の福祉体験の受け入れや、賑やかなアナウンスに誘われ応援に出掛けた運動会の練習風景は、年少者との心温まる触れ合いの機会となっている。本年度、自治会加入も果たし、早速、葬送手伝いも経験され、更に地域との交流が期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況を知らせると共に地域の情報など話題としている	年度初め奇数月の第3水曜日を開催日と決定し、直近には再度電話で、参加依頼のご案内をしている。運営推進会議で意見交換が行われ、そこでの意見をサービス向上に活かしている。地域包括支援センターや民生委員からは運営推進会議を情報交換の場として活用できることを感謝されている。	家族には参加のご案内を送付し呼びかけてはいるものの、勤務等の都合により出席も困難となっている。今後は、家族会日程に合わせて食事会後に開催する工夫や、地域駐在職員にもメンバーに加入して頂き、防犯上の協力助言を得る等、年6回の開催と人員充実に向けた取り組みを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを含め常によき相談相手になっている	運営推進会議には地域包括支援センターからの参加があり、相談窓口の一つになって頂いている。公的扶助手続きの為、市からの訪問もあり、担当者に電話で相談しながら連携が図られている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>何が拘束なのかをスタッフが共有し常に良い方法を探している</p>	<p>スタッフは研修会に参加、勉強会でその内容と弊害を認識し、“自分がされて嫌なことは拘束に当たる”という事を常に念頭に置きスタッフ間で共有している。拘束をしない為のアイデアを持ち寄り、家族とも話合いの場を持ち、安全を確保しつつ、拘束をしないケアの実践に取り組まれている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃より困難な介護については全員で共有し一人で抱えこまないように声に出すようにしている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>権利擁護についての紹介を行っている。勉強会への参加もしている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項については十分に行っている。又後日の質問についても納得されるまで説明をしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族・利用者の意見はいつでも管理者に届くようにしている。公的機関へも届くようせつめいを行っている</p>	<p>他の公的機関への苦情窓口があることを家族には説明している。利用料を持参でお願いし、入居者家族の意見に傾聴の姿勢を示されており、出された意見、要望は、全スタッフで共有し運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>上・下の関係なく何でも話が出る</p>	<p>管理者(役員兼務)は、常にスタッフに話題を提供し、意見を問う姿勢で臨み、良好な関係を築いており、スタッフの信頼も厚い。入居者の車椅子使用増でリビングを広く活用する為の和室のリフォームが提案、検討され、程なく実行に移される。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	働きやすい職場づくりを管理者のモットーとしている		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修など大いに参加するように呼びかけている。昨年に比べ積極的に参加するようになった		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	スタッフ自ら進んで参加を希望するようになった		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	家族よりの情報提供を出来るだけ詳しく聞く。入所後はスタッフが詳しく観察し連携をはかっている		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	どこまで要望に答えられるかをはっきり相手に伝えそのなかでよりBESTな方法を提案している		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人様にとって何が一番必要なのかを見極め サービスに生かしている		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症とか弱者とかの隔たりなく生活している。どうかすると利用者のほうが強いときがある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に共に支えあえる関係でありたいし 信頼関係を築くには共に歩くより他はない		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	近所・友人などが気軽に立ち寄れる雰囲気作りを行っている。スタッフともすっかり顔見知りとなり楽しく過ごされている	駆け込み100当番として周知され、通学路を通る小学生はすっかり馴染みの関係となっている。本人を取り巻く人間関係をスタッフ間で共有し関係を継続できる支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者間の橋渡し役となりコミュニケーションづくりを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族との付き合いがある 新米を届けてくださるなど気にかけてくださる		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの思いの中で行なわれている。本人主体で動かれている困難なときは家族と相談している	日常会話の中で発する言葉に傾聴し、態度で真意を汲み取り、時にはジェスチャーも交え意思の疎通を図ったり入居者と相性が良いスタッフが対応する等、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。それは、ケアプランにも反映し、実践されている。	
----	---	---	--	--	--

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何よりも本人の生活歴がサービスの基本である。家族より本人との会話の中より把握しサービスに生かしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の体調に合わせている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画全てにスタッフ全員の思いが込められるよう全員で作成している。又、家族の方へは面会の折状況の説明を行っている。	介護計画の原案は全スタッフで日々の関わりの中で得た情報や家族意見を元に作成している。ケアマネージャーを交えて本人・家族の同意を得て、本人本位の暮らしを反映させた介護計画が作成されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに細かく記入し、いつ見ても振り返りが出来るようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一組織内にある整骨院より毎日リハビリに来てもらっている。自立支援のサポートとして助かっている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校への散歩や通学中の子供との交流など喜ばれている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ信用されてきた病院との付き合いを大切に、事業所の協力医療機関にとらわれないようにしている。	かかりつけ医の選定は自由で、本人、家族の希望を大切にされている。医療連携で毎週看護師による健康管理が行われていて、併設サービスの看護師にも相談協力が得られることは心強い。専門科受診は、家族の対応で支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化時はすぐに対応できるよう、常に伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合ほとんどが協力医療機関となり、Dr、Sw等との連携が出来る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当の医師、家族と常に相談し、情報の共有をはかることによりホームで出来る限りのことをしている。	現スタッフの内3名は経管栄養等の医療行為の研修を受講し、医療機関と連携を図り、支援をされた経験がある。看とりの指針は入居時、本人、家族に説明され、意向を大切に、医療機関とも連携を図り、ホームとしてできる最大の支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が普通救命の講義を受講しAEDの使用方法等、習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元通報装置等の使用方法を訓練した。日中は同一敷地内の協力が得られるがホームを取り巻く家族は空家・独居の高齢者が多いスタッフが真近かに住んでおり心強い。	消防署指導の下、年2回昼夜想定と同法人合同訓練が利用者参加で実施されている。長崎のグループホーム火災後、自主点検を継続させ、こまめな清掃や避難経路には障害物を置かない等全員で注意喚起を促している。スタッフが地域消防団のメンバーであることや近隣居住は有事の際の安心に繋がっている。	避難訓練は消防署からお褒めの言葉を頂く等チームワークもよく実施されている。備蓄はあるものの、有事の際の保存食、他の必用備品を再度、検討され、最低3日分備蓄されることと、消費期限の把握の為、一覧表を作成され、一括管理されることが望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの言葉かけには自尊心を傷つけていないか常に反省を促している。	尊重とプライバシーについて、管理者、スタッフは勉強会を設け、常に“自分ならどういう対応が快いか”と自問し、他のスタッフにもこれでいいのかと確認しながら配慮ある言葉掛けで支援されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中より、思いや希望を聞きだしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ寄り添いながらの一日を送れるよう気をつけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添うよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いが出来る人は準備・後片付け等される。	食材は散歩を兼ねた買い物で、産地直売店で調達したり近隣農家から野菜の差し入れがある。入居者と何が食べたいかを相談しながら献立を決めており、旬の食材を用い全て手作り、お粥は2度炊きで作られ、パタカラ体操の後、入居者スタッフ共に食卓を囲み、自分のペースで完食された。食後、他の入居者の手拍子の中、歌を披露する男性入居者が感涙を催し、感謝する場面が見られ楽しい食事風景であった。また、テーブル拭き等参加もあり、入居者の残存能力を活かした支援にも配慮されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は把握し、体調管理に気を配っている。好き嫌いなく食べれるようになる。	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後すぐに自室へ誘導、見守り介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見て誘導し、なるべくトイレにて排泄してもらっている。	夜間はオムツ使用で日中はリハビリパンツとパッドの使用に移行し可能な限り声かけをして、昼夜、トイレでの排泄を支援されている。車椅子を使用している本人の立ちたい、歩きたいの希望によりケアプラン見直しがありスタッフの支援が功を奏し、自立支援に繋がったことは本人、スタッフの喜びとなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事献立を行っている。入所時と比べ排便がきれいになってくるのが分かる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否がある時は時間をずらしたり声掛けするスタッフを変えて行っている。	マンツーマンでの対応で夏場は毎日シャワー浴、冬場は週2～3回でかかり湯に保湿成分入り入浴剤を使用し、肌トラブルに備えている。今冬、重度の方には併設サービスの特浴を利用予定で、当ホームの浴室のリフォームも検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に気をつけ、昼夜の逆転がないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療内科受診の人がおられ、Drとの連携が必要とされるので病状の変化には特に気を配っている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>「手伝いはない？」と楽しみにされている。手伝いを何か探すスタッフが大変である。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ADLの低下と共に外出が困難になってきている人が増えてきた。外出拒否が多い。</p>	<p>桜やコスモスの花見、紅葉見物、唐比レンコンの花見物、ピクニック、ドライブ等以前はできていた外出が身体状況の低下と共に、年々外出困難になっている。しかし天候次第では、庭先で外気浴を感じながらお茶を飲んだり、お昼を頂いたり五感刺激の機会と捉え支援されている。外出不可能な日は、テレビを見たり塗り絵をしたり歌を歌ったりと趣味に講じて有意義に過ごしておられる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出する時は本人へ渡している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>コードレスにて話をされる。これからかける時はスタッフが支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>転倒の危険もあり過度に装飾物を置かないようにしている。特に光やにおいに気をつけている。</p>	<p>高い天井は開放感があり、入居者にとって落ち着ける空間となっている。対面キッチンで調理するスタッフの顔を間近に見られて安心感を得られている。リビングでもゆったり過ごして頂けるように配慮し、和室のリフォームを検討（程なく実行）されている。浴室リフォームも検討され、更に快適で居心地の良い新年を迎えられることを待ち望んでおられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれの思い思いの場所できつろがれている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活パターンに合わせ、本人・家族スタッフが一緒に行っている。	壁には写真が飾られ、ベッド、筆筒、椅子は備え付けで、好みの物を自由に持ち込めるが、入居者の要望で持ち込みは少なく、明るく、広々とした居室に整えられている。トイレ、洗面も完備され清潔にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーであり、各部屋にトイレ付きでプライバシーに配慮し、安全に生活していただくよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない